



発行所
燎原社

〒606 京都市左京区
東竹屋町・川端東入
部落問題研究所内
電話 京都 761-2141 番
振替口座京都 15762 番

発行人

木村 京太郎

頒価 1部 200円
年 2,000円(〒共)

四国石鎚山にて

品角一郎画



明けましておめでとう！

一九八一年 元旦

京都の民主運動史を語る会

世話人代表
世話人

住谷悦治
北牧孝三

全

山田幸次

全

井垣次光

全

稲田達夫

全

木村京太郎

會計
世話人

井上秀雄

全

塩田庄兵衛

全

品角喜代松

全

細川三西

會計監査
全

岡村清三

全

大谷健次

— 順不同 —
以上

第12回例会(予告)

日時
場所

一月二〇日(火) 午後一時半
中京区竹屋町河原町東入る
京都市職員会館「かもがわ」

ゲスト

元京都府労働部長 井家上 専氏

テーマ

敗戦直後の京都の労働運動について

参加費

一名 五〇〇円(茶菓費とも)
新しい年を迎えての初集会です、多数御
参加をお願いします。

京都の民主運動史を語る会

八一年を転換のスタートに

(1) 新春を迎えるたびに、故河上肇博士の「同志野坂を迎えて」の有名な詩がよく思い出される。

同志野坂 新たに帰る
正に是れ百万の援兵
わが軍これより
更に大いに振うべし
刑余老残の衰翁
竜鐘として垂死の床に跪坐し
涙を浮べ声を揚げて喜ぶ

われも十一年若かりせば
葦才われもまた
筆を提さげ身を挺して
同志諸君の驍尾に附し
澎湃たる人民革命の
滔天の波を攀ちて

共に風雲を叱咤せんに(後略)

河上博士は敗戦直後の一九四六年一月三十日に亡くなられた。この詩はその直前の一月十七日につくられ、二十六日の「野坂参三帰国歓迎国民大会」で朗読された。当時私たちはまだ三十才を越えたばかり、人並みに戦争の強圧に苦しみながら今日の夜明けを迎えることができた。ただ河上博士がこの詩の後段で、身を「葉末における露」に例え、体力・氣力衰えて「煙の如し」と歌われたのとは反対に、私たちは「万事はこれから」と青雲の志に燃えていた。にも拘らず私たちの多くは、この詩に云い知れぬ感銘を覚え、新しい人

民運動参加への、大きな激動を受けたのである。

(2) この時からすでに三十五年、いくつかの人民革命の「滔天の波」があり、何回かの反動攻勢の嵐があった。敗戦直後の怒濤のような労・農・市民団体の発展と、五十万・三十万人といわれたメーデーや食糧メーデー、一九四六年末からの二・一スト準備闘争、六〇年の安保改訂阻止の大国民運動など、私たちはそのたびに「政治転換始まる」の想いを深くした。

これに対し米日反動権力は、常に反共宣伝を大々的に強め、公然たる弾圧と懐柔・謀略・分裂工作の巧妙な使いわけで、これを潰してきた。曰く占領軍命令による二・一ストの禁止、一九四九年、五〇年のレッドパージ、下山三鷹・松川三大謀略事件による、反対闘争のぶっ潰し、安保闘争以後のライシャワー路線による労組幹部の懐柔政策、自民党の長期にわたる中間政党的抱きこみ工作、などである。

この二つの道の闘いは、今もなおいっそう激化された形で闘われている。河上博士の詩には解放の好き日に遭い野坂さんを迎える喜びとともに、再び滔天の波をよち上ることのできない無念さが惻惻と身に迫るものがある。私たちもすでに河上さんの亡くなられた年令を超えた。一九八一年を迎えてとくに思うことは、この年を何としても平和・民主日本への出発点としたいこ

と、元氣な間に持てる力を出しきり、その回天の事業に参加したいことである。

(3) 昨年末、平和・民主・生活擁護の陣営と、対米従属、大資本擁護、軍国主義推進の反動派との対立がとくに激化してきた。最大の理由は、米日反動や右翼団体、これに加担する一部中間政党によって、日本の軍国主義復活が公然と、且つ急速に進められてきたことである。十二月十四日付の「京都市民報」は、去る九月京都にも国際勝共連合きもいりの「スパイ防止法・制定促進京都府民会議」が、小川半次氏を議長に自民・民社両党の議員、財界、右翼団体幹部約四百八十人を発起人として結成されたと報道している。

この「スパイ防止法」は、あの戦前の悪名高い「軍機保護法」の現代版であり、明らかに国家総動員法や憲法改悪につながる、言論統制と国民弾圧の尖兵の役割を果すものである。現に去る十一月十日開かれたこの運動の全国代表者会議で、代表の一員である黛敏郎氏は「スパイ防止法が制定されたとき、さらに憲法改正にまで盛りあげねばならない」と明言している。

この促進会議は現在すでに二十六府県に結成され、京都府下でもいくつもの市、町議会で、発行人が過半数をしめている。制定促進の意見書を各級議会で決議をし、軍国主義体制の促進を下からも大衆運動の形で盛り上げようとしているところに、戦前とちがった巧妙さがあり、いっそうの危険性がある。すでに元号法制化がこの方法でお願い切られており、さらに憲法改正の請

願運動さへ始められている。

(4) このような危険な動きに対し、いま全国の平和と民主主義、そのための革新統一を願う各階層の反撃もまた大きく高まりつつある。「徴兵制・憲法改悪反対」「軍事費を減らして、くらし福祉、教育を守る予算を」「金大中氏を見殺しにするな」などの集会や、抗議行動、署名運動が全国的に力強く展開されている。そしてこれらを国民世論に高め、広げる巾広い懇談会が、全国各都道府県のほとんどに結成され京都では市内の全行政区や、乙訓、亀岡、舞鶴、与謝、洛南にまでつくられ、活動を開始している。

去る八月十五日以来、東京地裁では日本ではじめて戦犯追求を正面に据えた法廷闘争が、豊島区民有志の手で行われていた。巣鴨拘置所跡地につながる東池袋中央公園内に、国と区当局が強行建設した東条英機以下 A 級戦犯の記念碑は憲法違反である、というものである。原告代表の一人である山家子さんは「戦犯と戦争ギセイ者の巧妙なすりかえが行われ、しかも、自治体の決議で国政を動かす方法が採られているいま、戦争責任と憲法の意味をハッキリさせ、平和と民主主義の憲法を地域に定着させることが大切」と語っている。(日中友好新聞「二月七日号」)

一九八一年を、民主勢力の総反響の年、真の平和と日本への出発の年とするために、おたがいが力を合せてがんばりましょう。

末筆ですが、年頭に当り、会員、誌友各位の御健祥と御多幸を希念いたします。

(Y)

私の決意

京都 北牧孝三

一九八〇年がどんな年であったかは、いまだ結論を出すことはできませんが、私たち戦前・戦後を天皇制支配のもとで、アメリカ占領軍のもとで国をあげての侵略戦争の犠牲となつて苦しめられてきた老人たちにとってはひしひしと感ずるものがありました。

「二度と戦争はごめん」という思いは、真に国を愛し、平和を愛する人びとの心であつたと思います。

そのいやな戦争の匂いが人民の不安をよびおこし、物価高と不況の波が国民生活を根本的におよびやかしている。その一年でした。

今日の世界的な資本主義支配のゆきつまりが、一層この反動政治を助長しているのです。しかし私たちはこの支配階級の侵略と収奪と闘い、マスコミのゴマカシにも闘って、

独占資本とその手先とたたかわねばなりません。その力は国民の団結にかかっています。

その点で国民の政治力は戦前・戦後の反動支配の時代より、今日の政治力が発展しています。私たちは日本の民主勢力の力を信頼して闘うならば、かならず勝利は人民のものとなるでしょう。日本の民主勢力が団結すれば、未来は私たちのものです。私は私たちの団結によって、日本に真の自由と人民の幸福をもちとるために、この一年間

をあすから頑張ります。新年にあたっての決意をのべて、皆さんとの一層の奮闘を誓つて、この新年のごあいさつとします。
(南区大宮通八条西入る)

新年を迎えて

京都 藤谷俊雄

新年を迎えて皆さんの御健康と御活躍をねがっています。

小生は一昨年の正月早々入院手術してから二年目を迎えようとしています。二年間は健康回復を最大の目標として生活設計を立ててきました。

その間一昨年は『部落問題研究所三〇年史』を書き昨年『戦後の論文をまとめて』『神道信仰と民衆・天皇制』（法律文化社）を刊行しました。

これひとえに皆さんの温かいはげましのお蔭と感謝しています。
(下京区高瀬川七条上る・即現寺)

時のうごき

京都労働運動OBの会

十二月十二日午後一時から京都労働者総合会館において

結成された。この会は京都や近畿地方で労働運動又は自治体で労働関係十年以上の経験

者が相互の親睦・共済と、経験交流を図る目的で、発起人の浅川亨、小川広之介氏から趣旨の説明、経過報告、および京都総評の谷口内氏の祝辞があつて、百余名の会員参加盛大に行われた。

戦前と今

京都 斉藤雷太郎

戦前、東北の農民は娘を売った金を借金や税金にあてた。都会の若い労働者は、社会の矛盾に立ち上つたが、多くの人々は獄につながれ、そうして死んだ。

今、農民は農協さんによって海外旅行で国威を発揚している。生き残つたかつての若者は、老いて社会の片隅でそれを眺めている。長生したお蔭で見られる一コマである。
(上京区今出川千本西入る)

道しるべを正確に

京都 井上秀雄

道しるべはその道を通つて来たものしか作れない。私たちは自分の生きぬいて来た道をもう一度踏みしめて、将来へ通ずる道しるべを正確に一本一本建てようとしていく。

あまりにも有名な言葉だが「反共は

京都平民懇の忘年会

全京都の平和と民主主義をめざす各区懇談会が合同で、十二月十二日午後六時から二条城近くの京都福祉会館四階

ホールで団結を固める年末懇親会をひらき二百余名参加、京都府立大教授寿岳章子、漫画家ヨシトミ・ヤスオ両氏の司会で細野会長のあいさつ、黒田了一前大阪府知事、杉村敏正氏らを迎えて、民主市政奪還に花が咲き盛会であつた。

戦争の前夜だ」との蜷川前知事の言われた言葉も歴史の示す事実である。末川博先生は若い人の集った席ではいつも言われる言葉がある。

「あなた方は幸福だ、何故なればやがて昇るであろう新しい民主日本のあかつきの太陽をその目で見ることが出来るから」、これは必然的に来るものへの期待と確信に充ちた言葉だと私は思う。私たちも同じような言葉で若い人達に期待しなければならぬ年輩になつた。それでも、今年も努力を続けていこうと心から思っている。
(伏見区東堀町四七六)

旧縁(救援)会再発足

東京 俣野 旭

私たち旧縁の会は「救援」の名をもじつたものとも云える。戦前からのモップルOBの会合で、一時期を除いては繰返し続けてきたものです。いつも貧乏な集団で思つて暇とてないほどの連続でした。会報復刊五号まで漕ぎつけたおかげで、各筋から関心と励ましを頂き、些やかであっても統一戦線強化のために、今後永くながく続けて行きたいものと思つています。

会の意図は旧友達の親睦と団結のため自由討議と、心からの談笑懇談ができるような会を目指すと共に、歴史の発掘と、今尚連絡のつかぬ旧同志たちの探索をつづけることです。皆さまのご指導を切に願ひします。
年頭に当り、先覚各位の御健康と、御長寿を衷心希念いたします。
(東京都三鷹市上連雀六ノ九ノ七ノ二「旧縁の会」世話人)

1981年を迎えての所感・決意

人類生存の危機

京都 細井友晋

今年は「立正安国論」を説いて世界平和の実現を目指した日蓮聖人の滅後七〇〇年に当る年です。「立正安国論」は正法に基づく平和と世界の実現を主張したものです。が、今その教えは教団の内外で形骸化したものとなっています。しかし、国連は核戦争による「人類生存の危機」を警告しており、日本はそれを無視して軍備増強をすすめるようとしています。

この「人類生存の危機」を回避することが、現在の最大の課題なので、日蓮の末徒である私は、決意を新たに一九八一年を迎える心算です。

日蓮聖人は「異体同心なれば万事を成じ、同体異心なれば諸事叶うことなし」と言っています。

(立本寺住職)

反動攻勢には理論武装で！

京都 重沢俊郎

一、反動勢力の暴走が一層募るのは必定な八一年、それに対する安定した実効ある抑止力を早急に結集し、抑止第一年にしたいものです。

一、被害者の立場にある人びとの弱さを克服する第一歩として、青年層を対象に学習熱を高めることの緊要性を痛感します。第二次反動攻勢には、第二次理論武装で強烈な逆襲を！

(京大名誉教授)

「ファシズムの亡霊」と対決

京都 岡谷元治

奉天郊外で鉄道を爆破し、満州を占領して、大陸侵略の口火を切ったのは五〇年前の一九三一年である。

「満州は日本の生命線である」というのが、侵略を合理化する合言葉であった。今では「北方領土返還要求」というスローガンの下で、軍備増強が進められている。兵器増産は軍事産業の要求するところ、これら大資本の至上命令の下、自民党や民社党は盛んにソ連脅威論をふりまいている。アメリカや中国の世界戦略に沿った「反ソ・反共」の大合唱は、曾ての防共協定という「日・独・伊」のファシズムの亡霊を呼び返そうとするものである。

(同志社大、名誉教授)

ファシズムと戦争を抑止

京都 中野信夫

国際的にも国内的にも、大変危険な状況が生れて来た事が心配です。

戦前派・戦中派といえども、全力をふりしぼって、力をあわせ、ファシズムと戦争をおさえこまなくては、と思います。

(京都平民懇代表幹事)

平和の決意を新たに

京都 浅井清信

今年こそは危険な年
今年ほど真剣に平和の決意を新

たにかためる年はないと思います。平和の為の闘争に邁進したいと思えます。

(竜谷大学教授)

社会の進歩と人類福祉のために

天野和夫

昨年来の憲法改悪、自衛隊増強の動きのなかに、新春を迎えました。

皆さんとともに、平和と民主主義を守り、社会の進歩、人類の福祉のために奮闘したいと思えます。本年もよろしく、ご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

(立命館総長)

統一戦線発展のために

細迫朝夫

戦後第二の反動期、統一戦線を理論的にも実践的にも創造的に発展させたい。その環は、哲学ないし思想にあるように思える。

(立命館大学教授)

「永世中立国家」を！

田畑 忍

昭和四十四年の日米共同声明で、連憲の「安保体制」が、今や確固不拔になっています。軍事同盟の強化や、自衛隊増強、憲法改悪への無法な動きが急行していることも、其の結果です。

ですから、空しくその結果に対処するだけでなく、安保体制の廃棄と憲法の完全実施を真剣に考え、善闘しなければならぬと思えます。そのために最小限に必要なことは、日本が宣言で「永世中立

国家」になることです。それ以外に方法はありません。そのために、社・共の緊密な提携共闘が必要な条件であると思えます。

(同志社大学名誉教授)

期待す社・共の共闘を！

京都 飯田助左衛門

野党の中に中道と称して右傾化する政党が抬頭して、自民党一党独裁政治に手を貸している現状を、何とかして阻止しなければならぬ。特に京都の社会党は右寄りの色彩が濃く、革新政党から遠ざかりつゝある。このままでは社会党は革新陣営から撤退してしまい、大衆から見離されてしまいかねない。国民の期待は「社・共」の共闘にある現在、両党が手を携えて右傾化の現状を元の姿に引き戻し、共闘の場を作り上げて欲しい。社共の共闘態勢がでないのを喜ぶのは自民党だけである。

八一年の目標を共闘態勢の確立において欲しい。胸襟を開いて、小異を措いて大同に就き、自民の野望を破って欲しい。

(出版社役員)

下から統一戦線を！

石川 村中嘉明

ファシズムの台頭を徹底的に粉碎するために、公式主義・右翼主義にとられず、革新政党間のライバル意識・政党エゴイズムを捨てて、

民主団体の下からの統一戦線の確立を念願します。

1981 年を迎えての所感・決意

語る会の意義 これから

塩田庄兵衛

日本の空に冬雲がひろがってきました。このまゝ凍りつかせるのか、これをつき破って一日も早く春を呼ぶことができるか、いよいよ正念場を迎えます。

京都の民主運動史を語る会の活動の意義が発揮されるのも、これからだと考えます。よろしく願います。(立命館大学教授)

民主・反戦に役立てよう

左京区 和田洋一

京都の民主運動史を語り合うことによって、われわれのこれからの民主運動、反戦運動、解放運動に役立てることが、われわれの会の窮極の目的であるはずです。

かつての運動には、指導のまらがい、見透しのまらがい、どんなにひどかったことでしょうか。そんなことについても語り合う必要があり、若い世代が質問し、古い世代が答えるという場面も望ましいと思います。

(同志社大学名誉教授)

語る会の役割は重い

井上喜代松

八〇年に引き続き、政治反動化、軍国主義化は急速に進むと思いますが、飢餓や戦争体験を知らない人びとが、人口の 1/2 以上を占める今日、かかる人達に真実を知らせるため、語る会の役割はいよいよ重く、正しい歴史の具体的な裏

付けや、補足のための掘り起し作業など、困難ながら画期的な意味を持つものと思います。

ともに持てる力を発揮しましょう。

末筆ながら「燎原」の定期発行のご努力に心から敬意を表します。(企業組合役員)

会の全国的な拡大を

田中豊蔵

京都の民主運動史を語る会を、より早く、全日本の運動へと拡大して、がんばって下さるよう、会員の諸先生にお願い申し上げます。

会を愛される皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。一九八一年プロレタリア老兵七八才、元気でがんばります。

新年所感

京都 清水定平

謹賀新年、田村敬男(吉田下阿達町四〇)を通じて「戦旗」を読めた喜びで、当時の友人を思い、我七十三才の生存を、大衆のためにお手伝いできることを喜びと致しております。

皆々様の御健康をお祈りし、ご指導をお願いします。(会社員)

「プロ科学」時代を再確認

京都 横村庄一郎

「プロレタリア科学 20」(一九三三年四月・七月)法政大学社会問題研究所編・日本プロレタリア科学同盟京都支部の昭和八年ごろの

記憶を確めています。(医師)

松山事件の無罪を!

京都 大原健次

今年こそ無実を訴えて二十五年の死刑囚・斉藤幸夫さんが、再審で無罪判決を勝ちとる年にしたいと思っています。どうか松山事件の不当な即時抗告の棄却を要請する五万名署名と、四百万円カンパにご協力くださいますよう、心からお願い申し上げます。

(松山事件・京都守る会)

私の主張

南井吉五郎

日頃主張している次の二つを年頭の所感とします。

一、老人の勤労所得は課税の対象にせず、
一、老人の交通事故は、無過失責任とする。(薬剤師)

トリ歳の夜明けに叫ぶ

宇治市 横 正博

職もないのに色々と追廻されている内に、はや八〇年もすぎ、材木でしたら細くても七〇年以上もたつと、良い床柱として高く売れると思うが、人ではだめです。だが夜明けと共にトリ年なので、高らかに何を叫んだら良いのだろうか、一日も多く、長く生きて、日本の変転を見ようと思います。今年も皆さん御元気でガンバリましょう。

ご健闘を祈る

京都 中村富三郎

新しい年を迎えて同志諸君のご健闘を祈ります。

戦備増強に反対

西村清三

何はともあれ、戦争と、戦備増強に反対。

平和と健康を

岡谷 実

八一年を迎え、気持ちを新たに、皆さんとともに、平和と健康のために努力しましょう。

一層の御奮闘をいのります。(奈良市下高畑町七五三)

会員の末尾に

寿岳章子

まじめで清潔な会誌を拝見してうれしく存じました。みなさまがたのこれまでの努力を心から御尊敬申し上げます。会員の末尾に加えて頂きます。

(向日市上植野浄徳一〇の一)

誌友として参加

杉村敏正

前略「燎原」をお送り下さいまして有難うございました。お正月にゆっくり拝読させていただきました。例会の出席は困難に思われますので、とりあえず、誌友として参加させていただきます。大正七年九月二六日生れ。竜谷大学法学部勤務。(寝屋川市成田西町九の八)

— 第10回研究例会報告 —

大正末〜昭和初期の

労働組合運動の思い出(上)

前参議員議員

河田賢治氏談

「語る会」第十回例会は、十二月六日午後二時から同五時までいつもの会場——京都市職員会館「かもがわ」で、ゲストに日本共産党の長老、河田賢治さんを招き、標記のテーマで思い出話を聴きました。出席者廿四名中には、新顔の左京選管委員長の田中万次郎氏なども見えていました。司会者の山田幸次さんもうっていたように、数少ない、廿才前後から八十才の現在まで、戦前・戦後を通じて、指導者の一人として人民解放運動の実践歴をもち、しかも、今なお、要諦として河田さんからは、誰しもお聴きしたいことはたくさんあるでしょう。

しかし、今日のお話は標記テーマに一応限定し、戦後の話はまたの機会にゆずることにしました。約一時間余り話を聴いてから十分位休憩し、懇談に入りました。懇談記事は紙面の都合で割愛します。△小見出しは編集部で▽

私の生い立ち

今日は昭和三年、三・一五でやられるまでの体験談にしたい。

私の生れたのは京都府下の岩滝町で、一九〇〇年(明治三十三年)です。皆さんご存じの丹後はチリメンの本場です。当時は交通も不便、電灯もなかった。私の家は非常に貧乏な小作で、母は仕事のあるときには機屋から材料を仕入れ、手繰りの賃機を織っていた。明治の終り、大正に入る直前に機は力織機にかわった。百姓はやっているものの収穫の半分は地主に納め、母の賃仕事で補っても

一家が食うにはきわめて不如意だった。

最初、私は田圃は自分の家の土地だとばかり思っていた。尋常四年生の頃、じいさんが、小さな車にのせて米を地主の家に運ぶのについていった。割合大きな地主で、その子供に私の同級生もいた。じいさんはそこに着いても上り、柵によう腰もかけない。米俵のそばにへたばって土下座していた。そのとき、私は何てなさないことだと思った。

一方、岩滝から宮津まで、海を小舟でゆき、そこから、いろんなコースで京都にはいつてゆく。みんな人力で運んだ時代だった。じいさんは小舟ももっていた。そこでも終り頃には、櫂と櫓を漕ぐものと三人乗りに合理化し、

その後蒸気船の川舟にかわった。私は五年生のとき、宮津から着いた荷物を扱う店にゆき、その荷を岩滝の町を中心に一軒一軒配って一銭づつ貰い、それを学資と小遣いに当てた。

そうこうするうちに、父は宮津―舞鶴間を通う民間会社の小さい船の火夫(汽罐士)をやっていた。日露戦争が終ったころにそれをやめて、舞鶴海軍工廠に入った。明治四十五年三月私は岩滝町尋常小学校六年を卒業して十二才でおやじのあとで同工廠に入った。

舞鶴工廠で見習工

これが私の社会生活の第一歩です。十五才にならぬと職工見習いにはなれないので、初めは文書などをもって歩く給仕でした。二年勤めて病気になる、一年ほど遅れて、十五・十六才頃、水雷工場の見習工になった。

この制度上、十五・二十才になると見習工を終り、一般の職工になる。その頃、職工の日給が六十銭だった。舞鶴工廠ではあの頃、駆逐艦しかつくってはいなかったが、大体職工は四千人くらいいた。海軍工廠のなかでも、呉と横須賀は大きな戦艦をつくるから職工は一万人以上で、他に大きな大砲などもつくっていた。佐世保は七千人くらい、小さな巡洋艦くらいつくっており、この四つが海軍の工廠です。

給仕時代に「労働と産業」という機関紙を労働総同盟で鈴木文治が発行しておった。主に海軍の技手(高等工業を出た判任官級)や組長(職工長)らが中心になって、その雑誌を配っているのを知った。これも労働者の団結のための一つなんだろうが、鈴文が来て

私達は船渠(船の修理工場)に集り、そこは三〜四千人の収容力があるが、一時間ばかり彼の演説を聞いた。あとで調べてみたら、この海軍少将の工廠長と鈴文は宮城県出身の同郷人とのことだった。

総同盟といっても当時は政府とケンカするような組合ではなく、労働者の人格を高めるとかいうことで、資本家に受けのよい、また海軍とも一致のできる段階のものであった。

本当の労働組合の在り方なんて、当時の私にはよくわからなかった。同じ工廠の中で藤田という呉の海軍工廠におった労働者で、頭もきれたし、仕事もよくでき、日給一円十銭くらいで、組長ではないが伍長だったのが、呉だったかでストライキをやった話をしていたが、そんな話を聞いたのは初めてだった。

それは大正三年頃の第一次大戦さ中で、ドイツ海軍のいた青島に日本の軍艦が二カ月出かけていった。その他、日本は戦争参加といっても駆逐艦を二隻くらい地中海に送ったくらいで、第一次大戦では日本はあまり戦争をせず、に他の国が戦争するから比較的いろんな軍需・民需品を引受けたりして、それで日本の工業は或程度儲けて発達した。

十八歳のとき東京へ

そのような時期に私は十八才まで舞鶴にいて、実際労働者として見習仕事をしたのは二年間だった。当時若い連中が東京にいったので、私も同じところへ

(次頁へ)

思い、友人の本郷を頼って東京にゆくことにした。それは大正六年だった。今では大きくなっているが当時は三百人足らずの芝だけに工場のあった沖電氣に本郷は勤めていた。

丁度八月頃で、あとで判ったことだが一九一七年（大正六）三月ロシアにブルジョア革命が起き、ロシアからいろんな電話器などの注文が来ていたが、十月革命でブル政府が倒れたものだから注文がなくなり、会社もそれで不景気になったので本郷は技師と一緒にそこをやめて渋谷の方に三十四人の町工場をつくることになった。私は沖電氣には入れなかったが、彼の工場に入り東京で初めて働き出した。

私は労働組合運動もロシア革命も最初はよく判らず、労働者の新聞もあつたがよく読まず、夜学にも通っていたものだから、大正七年の米騒動などにもあまり関心をもちなかった。夜学の勉強に一生懸命で、米騒動などに出不着いてワットとケンカでもやるような気にはその頃はまだならなかった。米騒動以前から相当物価は上るし、労働組合もあちこちで活動をし出し、労働者の要求も随分と高まり、米騒動以後、私もだんだん労働組の活動を知り出して来た。

川崎造船所など神戸の労組はストライキをやってイタリイ式の工場管理などにやり、材料など全部自分らで管理してやっていた。造船、金属、機械などの労働組の強い産業では八時間労働制をからとっていた。

この八時間労働制の獲得は第一次大戦後の新しい現象の一つといえる。私の勤めていたところは八時間制ではな

かった。夜学を卒業して同級生が「日本鉄工」というあまり大きくない会社につとめていたが、大正八年秋の初め、

二〇才のとき

労働組合運動に参加

その「日本鉄工」という会社の社長は福沢諭吉の娘の婿、専務理事の中村という人は総同盟の理事をしていた。専務が人のような人だから労働も公然と認める進歩的な資本家のタイプだった。二百人ばかりの会社だった。

そこで仕事は安定するし、労働に入つて総同盟のいろいろな催しや、労働運動にボツボツ熱心に参加するようになり、労働運動の最初の手ほどきをここで受けたといえる。

大正九年になると大分あちこちでストをやりに出し、有名なのは、例えば足尾銅山のストで、代表団が東京にやってくるまで、よく演説をやり、私達もよく聞きていったが、鉾山労働者なのではないことがなかなか、勇ましかった。初めて労働争議の労働者のナマの声を聞くことができた。

それから、大正九年の初め頃、総同盟が労働学校をつくり、講師には経済学では慶応の堀江掃一、早稲田の安部磯雄、文学には片上伸などが大抵毎日きていた。ブルジョア経済学だったのだからあまり感心しなかった。安部さんなんか十八年間大学で講義しているといっていたが、搾取の話なんかでてこなかった。

一方、山川均、西雅雄、上田茂樹達が水曜会というグループがあって、そこから発行していた「タンクの水」と

私もそこへ移っていった。それまで、私は三田鉄工とか藤電氣とかの小さな町工場に勤めていた。

か「資本主義のからくり」など小さなパンフでわかり安い搾取の説明をしたり、世界各國の有名な一流学者、平和主義者のバードランド・ラッセルとか相対性原理のアインシュタインの理論を紹介している当時の進歩的雑誌「改造」の話をしたりしてこちらは相当興味があった。改造は商業新聞に初めて一頁全面のPRなどもやっていた。

少しあとになるが、クリスチャンの賀川豊彦の「死線を越えて」などドラム街のバクロ小説はベストセラーで、私達の話題や啓蒙にもなった。私は改造は時々買つて読んだ。それから社会党系の山名義鶴の雑誌「解放」なども出ていた。

社会主義の洗礼

第一次大戦以後、民族解放運動や、労働運動もいよいよ上り、そういうものにボツボツ私も触れ始めた。マルクスとかエンゲルスとか、そういう名前にもよく接するようになった。パリの平和会議後「国際連盟」ができて、その「国際労働組合会議」に、資本家、労働者、政府の各代表が円卓を囲んで、外国で世界的な会議が開かれたとき日本の労働組合の代表は鳥羽造船所の何と云う技師なんです。

総同盟はこれの反対阻止運動を起こし、棺桶を担いだりして東京駅まで、

更に横浜から船が出るところまでデモをかけた。

そうこうしている内、大正九年、あらゆる思想的傾向をのり越え、大同団結のため、社会主義者同盟が十二月の末頃、神田で開かれ、堺利彦、山川均、荒畑寒村など社会主義者といわれる人他に無政府主義関係の人や、労働組合の活動分子も参集した。そのとき初めて社会主義者同盟が結成されたようにしたが、五十六人しかやべつただけで中止、中止の連続で、解散をくい、このことで、私達はだんだん警官のひどい、無茶をすることを体験するようになった。

この頃になると、総同盟の中でも社会主義者と一緒にやるのは具合がよくない、と総同盟の東京連合会々長の棚橋小虎が、機関紙一月号に「労働組合に帰れ」という論文を書いたことがある。

学生たちと研究会

このように、労働組の中に政治活動を取り入れたりする活動が起こり、労働組もいろいろな思想団体なんかと接近して進んでいった。私達の鉄工組合も東京大学の中にある「新人会」の人達のところについて、そこで出している「先駆者」とか「ナロード」（人民の意）とか、それらの雑誌を買ってきて五反田駅の前などに売りにいったことがあ

る。私も初めて参加した。警官がきてみんな来いというので、引っぱられて品川警察まで大分歩いてゆき、初めて警視庁管下の警察留置場というものをみた。今は鉄筋が多いが、昔は大きな木の柱でできていた。合法的に出てくる雑誌なので、その晩帰しはしたが、そのようにして、新入会といろいろ話し合って、国家論とか、当時新らしいマルクスの経済論とかを、週二回ぐらいで、そう長くはなかったが、労働組合の先進分子と大学生と一緒に集まって新しい理論を一つづつ積み重ねてゆくということをやりました。

新入会の他に早稲田には「建設者同盟」というのがあり、大学で団体をつくっている学生が労学提携をするというような時期であった。

これは私達労働者が社会運動に入っていく、きっかけでもありました。

労働組合といっても、鉄工組合、電気工組合その他たくさんの組合があったが、普通は三百名、多いところで四五百名くらいだった。構成メンバーは筋肉労働者で、事務系統やインテリは労組には入ってこないが、進んだ工場は大低労組に入ってきた。インテリの教師の組合とか、ホワイト・カラーの事務員はサラリーマン・ユニオンなど組合をつくってはいいたが数は非常に少なかった。現場のブルー・カラー（葉ッ葉服）の労組は、大きなところで、今からみれば小さいが、総同盟に入っているはなかったけれど、石川島とか芝浦とかには千二百二十人くらいおり、総同盟加入組合の中には金属産業の他に化学産業、モスリン業のセンイ産業なども若干あり、争議などもやっていた。

ました。

この他に海軍工廠や陸軍工廠の官業労組があった。これらの官業経営は基礎が大きいし、戦争道具を作っていたので当然直接政府が管理をしていた。当時労働団体は相当数あったけれども、

世界的不況の中で

ところで、大正九年になりますと、世界的不況になりまして、私達のところは十年になって、工場縮小、指名で三分の一の首切りをいってきた。毎日食堂に集まり、労組の集会を工場内で初めてもつようになつたが、工場を追い出されてからは劇場や寄せを借りて集まり、近くには機械産業の労働者への打撃は大きく、深川の小さい工場では工場のハンマーで機械をブチこわし、つかまつて刑務所に送られた者もあった。イギリスの産業革命初期の新らしい機械導入合理化による熟練工追放のラダイト（機械打ちこわし）とは少し違い、首切った会社の奴隷の腹いせだった。

ストによるというより不景気による工場閉鎖で、大低の工場は二週間の解雇手当で終った。ストを打てばスト中の日当を半分出すのが普通の妥結だった。私達のところは、売れない在庫の魚船用発動機を千葉や島根までも労組みんなで売りさばきについて、五カ月の退職金を配分し、一躍有名になった。少数の人が残り、首になった連中は仕事をさがしに廻ったが、組合員分散防止のため、半年分の組合費を一括前

まだ、ほんとに労組として活発に動いていたのは総同盟だけで、総同盟の中でも社会主義運動が強まるにつれ、はっきりとはしていないが、この頃から漸次、左翼的と右翼的の色わけが少しづつ出てきていました。

納して浪人支部というのをつくった。私は初めて首切りを味わった。おやじもまた舞鶴工廠で、罐焚きの合理化で首になり、資本主義のこわさを身にしみて知ることになった。

大阪・神戸での経験

このようにして仕事がなくなり、五月頃、沖電気に入ったが、あまり芳ばしくないで、故郷舞鶴で、また工廠に入ろうと思ったが、なかなか返事が来ない。しばらくしてからお前は警察のブラック・リストに載っているダメだとのことだった。そこで姉婿を頼って大阪にゆき、小さい町工場に一月、そこをやめ、伊藤忠に入ったが仕事がなく二週間解雇。

大阪ではその頃、藤永田造船とかいろんな造船や機械工場の大手筋がストをかちとり非常な人気で、西尾末広も藤永田を煽動したとかで治安警察法でやられた。神戸でも川崎造船、三菱造船が大争議をやり、賀川豊彦なども運動の指導者として警察につかまり、そこで詩なんかを書いてそれを改造で発表などしていた。

そのような大争議には私もいつてみたいし、神戸では食うだけあればよい

と、半月ばかり争議団の中にいた。

東京でのオルグ活動

秋になると、今度は東京にゆき、石川島造船にもぐり込んだ。同造船所系の深川の自動車工場で働き、私の友人もそこにいたのので、しばらくは表に出んことに申し合わせたのだが、要求書を書いてくれとか、いろいろおせっかり、親会社が入った。この深川の分工場では当時としてはめずらしい親工場の解雇反対ストに対し同情ストをやった。これも負けて二週間働きの二週間分の手当をもらってお払い箱になった。私にとってこの大正十年という年は三回餓首、七回工場を変えた。

私は腕を磨く意味も含め、何でも機械産業ならやってみよう、工具も覚えねばとあちこち歩いたものです。

この頃、モスリンでも争議をやり、あちこちで争議があったが大体敗北の連続であった。

大正十一年の一月になって東京駅の丸ビルに仕事をさがしにいった。あの辺はまだ草ボウボウの野原で海上火災一軒だけあった。私は九階建の丸ビルに配管工としてパイプを取付けにいったが足場が悪く非常に危険なので仕事をやめた。この年の初め頃、総同盟東京連合会長が辞めた。

千葉県の野田に茂木という醬油屋があり、そこに労組をつくるため赤松克磨と一緒に応援に出かけ千何百人かの組合ができ、そこで争議をやって、これは勝利した。

東京には組合に連合体があったが、殆んど活動しないというので総同盟の関東同盟というのを作ろうというので

それを作り上げた。私はその主事になっていくと思いきらべてみると主事になっていなかった。関西では、大阪、神戸、京都と連合会が西尾など中心になって関西同盟というのを作った。

これは大正十二年の話です。私はまだ勤めながら、あちこち労組をオルグしながら廻っていた。十一年には鉄工組合の労働者の集会所(会館)をもとうという事になり、田口という組合長宅の近くに平家(八、四、五、六畳

入 党 後 の 活 動

これが丁度大正十一年、共産党がで

きる年で、私は慶応の講師をやっていた野坂さんと、まだ独身で労組の宣伝部長をやっていた赤松克麿の推せんで入党した。

党は出来たが、まだ、キッチンと労組を指導するというようなことはできなかった。党のなかでも、第一回の大会では天皇制問題をどうするかで、もめた。同時に私達は労組内の活動分子と連絡をとって左翼グループ——レフト——をつくり労組を発展させるという政策をとっていた。執行部をもつ労組の左翼組合は国際的にはプロフィンテルン(赤色労働組合インタナショナル)に入る。正式には労組で決議して入るとその組合は赤色労組と見られ、また資格をもつわけです。

党の方は国際的にはコミンテルン(コムニスト・インタナショナル)があり、国際的単一組織として、各国共産党はコミンテルンの一支部になるわけ

の(三間)があり、それを買おうということ、金集めの相談になり、社会主義者などの紹介状を貰ったり、株屋にいったり、小説家の倉田百三の家にも訪れた。金も集まり会館もできた。私のような風来坊はそこで寝泊りができた。関西から誰が来ても泊れる事務所兼アジトのようなものだった。

そこで関東同盟をしっかりとしないでならぬということ、七月頃大会を開いて、私は工場に通いながら組合オルグを或程度やっていた。

当時、鉄工組合を例にとれば、その中に黨員は三十四人、レフトは十人くらいでした。党の機関紙「赤旗」はまだ出ておらず、当時、合法的な「無産者新聞」が始めた。

「労組総連合」結成ならず

そういう時代で私たちの任務は総同盟の中に関東同盟をガッチリ固めてゆくことでした。党ができて、まだ充分労組を指導してない時期なんです。が、ボル系、アナ系、官業労組など全国の労組を大同団結し総まとめすることを目的に、大正十一年十一月大阪の天王寺公会堂で、日本労働組合総連合の結成大会というのが開かれました。

この頃、新聞労組の正進会、印刷労組の信友会などというアナキストの労組があり、他方総同盟系をボル(シェーキー)系といっていた。

いわれた。

総同盟全体がボル系ではないのが、一般の人はそのように呼んでいた。この他に官業労組——東京や大阪の砲兵工廠、海軍工廠——があった。

これら全部を含め、全国的にまとめようということになっていたが、一方アナキストの信友会や正進会は小さい労組だが非常に戦闘的でストをやるとこれらの組合は活字のケースをひっくりかえして、捨てることを盛んにやって大変困らせたものだ。当日は鉄工組合から出ている共産党の横石信一が「中央集権主義」の主旨をもって、総同盟派の代表となり、「自由連合主義をとるアナキスト派との対立で、まるきり、まとめるといふより、どう分裂するかという方が重点になっていた。

会場の一方には大杉栄などが陣どり、他方には堺、荒畑達夫が陣どっていた。会場は投石などで壇上の水差しが割れるなど混乱に陥り、結論も出ないまま一時間くらいで解放を命じられた。それから労組の全国的連合運動というものはないわけです。そういう時代でした。遂に大同団結はできなかったけれども、しかし私達レフトの連中は、労組はできるだけ一つにしていかないとダメだという考えをもっていました。

その一例として、大正十二年三月にかけて関東鉄工組合が電気労連などと一緒に、関東金属労組になった。

関東大震災

大正十二年には関東大震災で、たくさんの方々が犠牲者や、朝鮮人が暴動を起すとか、井戸に毒を投げ込んでいた

とかのデマを飛ばされた。

総同盟にいると警察は穏健だと思ひ引っぱりはしなかった。九月一日には丁度、新潟鉄工所というのがストをやっている、田圃の中に小屋を建て、そこで集会をやったり炊飯をしていた。

十二時少し前の地震で会社の建物もコンクリートが落ちるなど、しばらくすると、横浜の方は真っ黒に煙が上がった、また東京の空は真っ赤になり、三日三晩燃え続け、火事の方が地震で死んだ方よりはるかに多かった。東京の半分近くの家はやられた。

東京市は大体、当時山手線の内側にあり、外は大部分畑や田圃だった。この震災で家が焼かれたので山手線の外に家が建てられるようになり、震災後東京は急に拓がり出してきた。

わが陣営も亀戸事件で、仲間や、朝鮮人、大杉栄夫妻なども、どさくさに大ぜい虐殺された。

六月に大きな弾圧を受けたので、共産党の中にもだんだん臆病風が出だしてきた。党活動も一時ダメになり、組合運動も急進的なものが可成りおとなしくなる傾向があった。

そのとき第一次共産党弾圧で多くは引っぱられ、最初に共産党をつくった堺、山川、野坂、他に労働者も二、三人、当時の適法は六月十二カ月の禁錮刑の治安警察法だったので十二月にはみんな出てきた。

しかし、このような大弾圧を受け、結局、労働組合運動は非常に右寄りの線が出てきた。

—— 文責・井垣次光 —— (以下次号)



河上先生の書簡

今年の七月、四国今治市での「屏風と染織工芸」の個展で、一週間余り知人の方々のお世話ですごした。

その時の大きな収獲は、今治市で民主的な運動をやっている若い人々に多く出会って、運動についての意見を交えたこと、故長谷部文雄先生の宅で、故河上肇先生の書簡を発見したことでした。このことは共産党の武内茂夫県会議員の努力によるものである。この貴重な書簡のコピーを、帰

—四 国 紀 行—

品角一郎

は書簡のコップーを、帰京後兵庫の一海知義氏のところへお送りしたところ以前から探していた貴重なものだと喜びのお手紙。その書簡のなかの漢詩「天荒を訳してお送りいただいた。この詩は昭和十三年二月、河上先生刑余生活中のものである

天荒

人は老いて窮巷に潜み
天は荒れて未だ紅を放
たず

狗吠門前路
雲低萬里空

犬は吠ゆ門前の路
雲はたる万里の空

ところで、武内氏の話では、故長谷部先生の家を整理した際、他にも貴重な資料が沢山あり、それを保管する適当なところがないとの言葉を聞いて、何処でも同様の問題が残されていることを知り、何とか民主運動のなかで解決せねばならないと深く考えさせられ

たのである。

石鎚山での研修会

その後、十月一日から三日間、再度四国を訪ねる機嫌を得た。それは今治市の青年会議所（ＪＣ）の研修会に講師として招かれたのである。同行してもらったのは清水寺の福岡精道師と、私の画のお弟子さんの石田昭子君の二人であった。

どんな理由で画家と宗教家の二人が招かれたのか、その真意はわからないが、ともかく四国今治市についたのは正午すぎであったが、小休止のあとと研修会の会場とされている石鎚山（標高一、九八二メートル）の中腹にある石鎚神社・中宮成就社（一、五〇〇メートル）の前にある旅館白石小屋にむかった。会員二〇名と私たちは、自動車に分乗して二時間余りを走って、石鎚山のふもとからロープウェイに乗り、わづかの時間で、一、三〇〇メートルまで登った。それから約一時間、二、三日前に降った初雪を踏みながら急な山路を歩いたのである。この山登りは、四月からの心臓病と肝臓病でやられている私にとっては大きな苦行であった。研修会のテーマは『人間の生きざまについて』である。夜六時からじまわり、夜中の二時近くまで熱心につづけられた。福岡精道師はさすが法話で訓練されたおられ、宗教家の立場で、社会の矛盾をつき、世界の平和を説き、戦争反対を話された。私は芸術家として、人間の真実追求の尊さを話した。そして講話に対する質問は実に卒直で真剣であった。集ったJICの会員は二十才から三九才までの人びとで、真剣

宇和島に文化人交流会

に自分の歩んでいく道をみつめた人びとであるのに驚いた。JCは全国各地に組織されていて、政党では自民党支持と云われているが、実際に接して話しあうと、実に純粹で、人間的な思考力が豊富なのに吃驚したのである。この点は福岡精道師も同じことをもらし
ておられた。

翌二日の晩は、七月の個展の際知人になった長井義隆社長（江南株式会社愛媛物産株式会社）の招きで、豪壮な迎賓館に一泊し、山海の珍味を頂戴しながら、夕方から夜半まで、宗教論、人生観、芸術論、労働問題と、実に広い分野にわたって歓談し、話の最後に今治市にも文化人交流会を組織して、京都文化人交流会と交流する目標がきまったのである。この席には金毘羅山満願寺住持職星野敬昌師も参加されて、賛成しておられた。紙面の都合で略すが、長井義隆氏のことについては、もっと具体的に書かねばならぬことがある

弘法大師建設の満濃池

翌三日は、長井義隆氏と星野敬昌師とともに、三島市の新長谷寺を訪ね、住職長尾密乘氏の案内で重要文化財を拝観し、それから香川県の満濃池を見学して走った。この池は今からおよそ七五〇年前の昔、水で苦しむ農民、住民の苦難を救うために弘法大師が築いたダムである。山の中に満々と水をもつ湖の如きダムを見ながら、私は長井義隆氏の説明を聞いていた。その構想の雄大さ、堤防建設の科学性には驚嘆せずにはおられなかった。私はその場

宗教は、ともすると観念的なものと私たちは考えがちであり、宗教家のなかにもまた、宗教は葬式や仏事でありお経や説教でゴマカして終わっている傾向が一部に実在するが、真の宗教とは人民の苦悩を直接間接に救うものであり、実践的であり、科学的であらねばとつねに思っていた私にとっては、この満濃池を見て宗教の実践家弘法大師の偉大さに胸うたれたのである。今度の四国紀行の中でこのことは大きな収穫であった。

大步危、小步危

島県に車をとばし、香川県に入る前に私は徳
 大歩危・小歩危の景観を見ることのできた。それは実に壮大な風景で、目の前に峨々とそびえ、涎々と波打つ山脈に胸うたれ、奇石、断崖の間を縫って流れる満々たる清流には、画家として表現できぬ衝撃にうたれたのである。私は、この大自然を前にして、古今東西の水墨画を大いに、まだまだこの大自然の風景を描破した画家が実在しないことを心からはずかしいと思ひ、偉大な景観をあとにした。

私は帰京後、ベエトベン氏の「第九交響樂」を聞き、つづいて「莊嚴ミサ」を聴いたが、ベエトベンはまさに大自然のいのちを表現している偉大な芸術家であることに、今さらながら感動を新たに抱えているのである。

(一九八〇、一一、一〇、病床にて)

— ソ連見聞記(3) —

ソ連の障害者対策

岡谷元治

今年には国際障害者年である。

ソ連の障害者対策はどうなっているであろうか。聾啞者教育を例にとって考察してみる。

ソ連ではあらゆる地域にわたって、その地域の中心地に言語障害矯正所が設置されている。ここには内科はもちろん、耳鼻咽喉科・精神神経科などの医師の他に聾啞教育の専門家が働いていて、早期教育による障害児の救済に努めている。

早期教育とは先天的なものや生まれて間もなく異常を発見された子供を特別な教育と訓練によって、いちはやく矯正しようとするものである。この訓練は医師が異常を発見すると直ちに、たとえ新生児であっても即刻始められる。障害児教育には多方面から子供の発育についての観察・調査が必要で、子供の全体的発育や知能測定、言語理解や残聴の程度の調査が含まれる。

障害児が二才になると両親はその子を就学前の施設に入れるよう勧告される。施設はいろいろなタイプに分かれている。矯正所の他にも、五カ年教育の保育所、四年制の幼稚園、二年間の聾啞学校附属就学前教育部などがある。

これら就学前の施設での数年間に障害児の多くは矯正されて普通の小学校に進めるような高い水準に達することが出来る。義務教育に関する法律はもちろん障害児教育にも適用されるが、国家の財政支出は普通学校に較べて特

特別学校には八倍増し位になるといふ。それは特種な教材や教具など機械器具の装備に特別の注意が払われている他に障害児教育に従事する教職員に対する特別手当を含んでいるのである。

就学前に障害児の親はその子を普通学校に通わせるか特別学校に託すかに

~~~~~ 歌で綴った ~~~~~  
12・5 事件の思い出

井上喜代松

## 逮捕

早朝にわれを襲いし特高に逃げかくれするかと手錠はずさず  
特高に声をあげてまきぞえの 弟間なしに釈放させぬ

## 拘置所にて

護送車より下りたるわれは編笠をぐいと持ちあげ空を見渡す  
治療外になき身をデシン湯に日を浸せり皮膚のわれは  
ともかくも欲ばりて読むカントやポアンカレも意味解しかたきままとにかくも知識欲にて無量寿経強いて読みたり信仰なきに  
日々を英和辞典の一ページ 読みおくりゆくわれをいとしむ

ついで教育委員会の助言と推薦を受けることになっている。

障害児が普通学校に入ることは以前には考えられないことであったが、早期教育の普及によって、今日では珍しいことではなくなっている。

さらに高等教育も門戸を障害者に開いている。医師や鉱山技師などの特殊な職業を除いて、職業学校や大学は他の受験生と同様な取扱いをするだけでなく、先天的障害者に対する奨学金は通常の場合の50%増しである。

## 受刑生活

真裸になりて隔てを跨ぐればわれ罪びととなりけるらし  
何犯かと看守はわれに問いたれど答えず歩む人氣なき廊下を  
三年を起居する部屋と思ほいて隅々までも拭き清めたり  
反則を知るも是非なしまわしとり足を括りて眠りにつくも  
脚もとを温かくすれば寝やすしと脛と足をたわしでこする  
海老のごと脚をかめて寝ねしかも寒さをしのぐ手立と知りて  
十ワットの灯火の下に食りて 本読みたれば眼を痛めたり  
ささやかな特典なりき読書時間延長さるる思想犯われに  
差入れの五冊の本を積み重ね 作業なしつつ心なぐさむ  
唯物史観の立場に立てる経済史 差入れあれば北叟笑み読む  
澄し汁のしる多けれど具はなにとさぐりたれども箸にかからず  
副食に金時豆の入るとき 提灯行列

と受刑者はいう

目び眺むる灰色の窓は変化なき 無  
声映画の一瞬にして  
輝の手を温めつゝ看守の目をば 盗  
みて同志(とも)と話すも

真夜中に母ちゃんと呼ぶ友の声 独  
居房中にひびきわたるも  
かくばかり衰えたを知らざりき  
風呂場で手桶ささげ敢えすも  
衰うも薬、食事に配慮なし、横たう  
のみが治療とさるる

すじ向いの河田賢治は血を吐きて  
苦しみおらんも病舎に入れず  
大戦の始まるるニュース聞きたれは  
獄舎血塗るる様呼びひいす

## 工場に出で

昼の間は工場に出でて一廊に 書  
繕いに専従すわれは  
火を使い書物も読める作業なれば  
わが北叟笑み日びを重ねる  
工場と独房むすふ長廊下 激しき咳をこらえて走る  
咳きながら長い廊下を走りたり ひ  
そかに憂う生きて出するや

(附記) 昭和十一年十二月事件の思い出を小生、横田川潤一の筆名で「新日本歌人」誌に掲載した歌です。今回配列を整理しました。

## 投稿歓迎

文芸欄を設けます。本誌にふさわしい詩、和歌、俳句、川柳、一口噺などどしどし送って下さい。新作、旧稿を問いません。(編集部)

## — 新年随想 —

## 思い立った日が吉日

— 年末のある日 —

住谷悦治

「読み人知らず」として伝承されている名歌は相当あるらしい。わたくしは、いくつもの例をあげることができる。わたくしは小学校時代に「実業之日本社発行の『日本少年』という興味深い雑誌を東京の本社から代金前払いで毎月購読していた。東京本社からの直接購読者は、群馬県群馬郡国府小学校でわたくしひとりだけであった。

当時の実業之日本社社長は増田義一で、顧問は新渡戸稲造博士であった。わたくしはこの『日本少年』の「読者欄」を通して全国に多くの愛読者を知り、眼界が広がった、それからの愛読者相互の通信で、顔も知らない他府県の「愛読者」と「投書家仲間」として何人かと親しく文通した覚えがある。

しかし、中学に入學してからは、そういう見も知らぬ愛読者仲間とも別れてしまったが、その『日本少年』誌で、新渡戸博士の名を知り、直接手紙を出したら、巻紙に毛筆で書いた返事を下さった。その大切な手紙は郷里の家に保存されている筈である。

『日本少年』の顧問として、多くの愛読者から崇拜の的となっていた新渡戸博士が「修養」という本を出された。わたくしはさっそく、先生の「修養」という大著（当時としては）を書店から買って愛読した。その本の中で、いくたびか思い定めて変わるらん

頼みがたきはわがころかな  
という和歌を覚えて下さったのである。そのときの感激は今もなお忘れることはできません。

「新渡戸博士」イコール「修養」であった。そのころの愛読者は全国にわたって相当多くいたのであるから、いま年令八十二・三才の年ばいの方には、思い出される人がきつとあると思う。わたくしは新渡戸博士によつて教えられたこの短歌を、一生涯覚えていくことになる。新渡戸博士イコール「修養」の読み人知らずの古歌である。新渡戸博士はかくして「修養」という名

寒いころには腹がへる。のみくいはほどほどに出る。口が出る。高カロリーの食物をとらんとやって行けぬ。

『武士は喰わねど……』なんて男子たるもの、食物のことなど、人の前で話さんのが礼儀だったらしいけれど、今の日本。そうではないよう。大げさないうと、

食物文化が市民権を得たともいうのか、食費はやすくないというのに、テレビ、新聞・雑誌など、マスコミは華

## — 新年随想 —

## のみくいはほどほどに

山本浩治

『腹がへつては戦さもできん』、營養たっぷりは活動の源泉だから、ふところ相談のうえ、大いによまいもの摂るべし。ということだが、食糧難のある戦時・戦後とちがって、今はどうも喰いすぎ、飲みすぎで事故を起してあるようだ。肥満、胃腸疾患、がん。それに糖尿、高血圧、高コレステロール。身体、運動不足も要因の一つだろうが、こんなことでは人類の先々が思いやられる。人間、どうやら本来がクイシンボウのようだから、しょうがないといえ、それまでだが、正月を迎えての所感。のみくいはほどほどに用心したに越したことはない。（医師）

著とともに、わたくしの素晴らしい恩師である。

やがてわたくしが前橋中学校に入學したとき、中学校長福井彦次郎先生は、しばしば東京から有名人を招いて全學生徒にその講演を聴講せしめたが、あるとき、わたしたちの崇拜していた新渡戸稲造博士が招かれた、その講演を全校の生徒に聴かせられた。博士の講演の中心テーマは偶然にも上記の名歌『いくたびか思い定めて変わるらん』の歌についてであったので、わたくしは独り心中歓喜に慄えたのであった。忘れ易いわたくしは、この名歌を日常くり返して心に浮べ、自分の勉強への決心を新たにしていたのであるから。

爾来六十数年間、わたくしは新渡戸博士の口から直接にこの名歌について

げて料理飲食に血道をあげてゐる感じ

『腹がへつては戦さもできん』、營養たっぷりは活動の源泉だから、ふところ相談のうえ、大いによまいもの摂るべし。ということだが、食糧難のある戦時・戦後とちがって、今はどうも喰いすぎ、飲みすぎで事故を起してあるようだ。肥満、胃腸疾患、がん。それに糖尿、高血圧、高コレステロール。身体、運動不足も要因の一つだろうが、こんなことでは人類の先々が思いやられる。人間、どうやら本来がクイシンボウのようだから、しょうがないといえ、それまでだが、正月を迎えての所感。のみくいはほどほどに用心したに越したことはない。（医師）

の感想を聴くことができた。ほんとうに私は感激した。博士のような偉い先生でもそんなのだろうかと考え、とても勇気を吹きかえすことができた。この感激はわたくしの一生涯を支配した反省であるといえよう。

現在でも心弱いわたしは、しばしばこの歌をひとり心の中で繰り返して、少年時代の思い出を呼び起し、そのたびに、その日を吉日として心に誓いを新たにしている者である。思い立った日が吉日である。（一九八〇・二・一〇）

小田（美奇穂）先生を偲ぶ

南井吉五郎

老いたる今日、私は若き日を追想して数々の友人のうち、小田美奇穂先生は忘れられない一人です。

立命館大学専門部在学中、小田先生は私より一年上で、大正九年頃小田先生がリーダーとなりL・L会をつくり社会問題、労働問題等を話合したこと

が懐しく偲ばれます。いつも相国寺の近くにあった小田さんの下宿、その他で月一回位研究座談会が開かれ、会員は七・八名位で、私も之に参加しました。その中には朝鮮出身の学生もいました。その中の一人某君が、その後東京に出で右翼に廻り部下に殺されたとのこと。

小田さんは大正十一年卒業、弁護士試験に合格して開業され、後に京都弁護士会々長をつとめられた、そして労働運動や農民運動の弁護活動にも力を尽されて、京都市会議員および府会議員に当選されたのです。（次頁につづく）

# 婦人のページー 婦人たちは今

品角小文

国際婦人年京都連絡会は、「国連婦人の十年」の中間年にあたる今年、心から平和への願いをこめて、「戦争展」を開催致しました。

野望に燃えた日本の軍国主義者たちが、三百万人におよぶ日本の国民の生命と二千数百万人のアジアの人達の生命とくらしを犠牲にした無謀な第二次世界大戦に突入した痛恨の記念日、十二月八日から四条西洞院西北角の京染会館に於いて開きました。

展示品は、読売新聞社からお借りした「出征から復員まで」のパネル九〇点、戦争に関係のある品々、京都が空襲を受けた当時をしのぶ写真や、爆弾の破片などで、いづれも戦争の悲惨さと残酷さを物語る品々であります。

観覧者は次々と続いて、それぞれの思いで喰いのように凝視しています。累々と山のように重なる觸摸写真の前に、一人の老婆が釘付けにされたように立っています。

近づきそっと肩に手をおくと、  
「なあ、貴女はん。あての息子の骨もこのなかに、あるんちがいますやろか、骨が動くように見えるんぢえ」

母と子の絆をたらし  
戦争という名の毒牙  
死の生産者たち  
許すまじ  
あらゆる苦悩に



カット 東 春江

たえた母  
今こゝに立つ

ベニヤ板で造った軍艦に、二四〇〇人の兵士が乗せられ、全員海底に沈んだ写真の前に戦争経験のある老活動家のつぶやきが聞えてきます。

「昔の軍隊は上官の命令は絶対やったんや、たとえベニヤ板で造った船だと知っている者がいたとしても、乗れと言われたら乗らんわけにいかんだんや。今やったら反対と言えるけどなあ、これは集団殺人なんや。皆んな聞いてくれ……戦争は集団殺人なんや。」  
声が怒りにかわるのでした。

## お若い方へ

京都 渡辺美登

よく視、よく聴き、よく語れ、  
ひろ子を論ず 八十年の新春  
こんな賀状をかいて、まだ何ほども日がたっていないと思うのに、早や一年たってしまった。

河上先生の社会問題の研究を読んでいただけで、兄が向日町署へ呼び出されたり、父から禁足を命ぜられたりした日から六十何年がたちました。

○

小学校六年生の集団が、三組に分かれてはいつてきました。興味をもって集団の後にそっと近づいて行きました。

「おれ自衛隊の訓練見たことあるんやで……お揃い服できびきび動いてさ、（カッコいいなあ）と思ったで」  
「でも戦争になったら、真先に死んで」

「誰れも知らん所でき、誰れも知らん間に死ぬかも知らんやへんで……」  
「なあなあ水盃ってなんや」

「お酒のかわりに水呑むんや」  
「なんのためにそんなんするん」

「知らんで……」  
あ、この子供たちに、生命の大切さ、戦争のおそろしさを、どうしたらわからせることが出来るのでしょうか。

戦争が終って三十七年  
空しく濃藍の海に吸いこまれた多くの生命  
千里の異郷に散った  
幽憤の觸摸

主人を見送って七年、これから好きなように生きてゆくののだと思ったら傘寿なお たまわる命 初御空  
なんて八十すぎたら、頭も、ボヤー、足も腰もガタガタ、もうあきまへんワ  
鶏鳴よ、軍靴のひびき吹きとばせ  
と言ってみても、雞の声ぐらいでは、右へ右へと移動する天下の情勢を吹き飛ばす訳にもゆきましますまい。

いやな世の中になる前に、早々と、お浄土へゆく方が、安泰かもしれませぬ。お若い方、ガンバって下さい。  
（伏見区淀大下津町一七七）

(前頁のつづき)

晩年は立命館（大学）の理事長、京都府労働委員会委員長などの要職で社会的な功績が多くありました。

十年ほど前、病気で惜しくも京都第二赤病院で亡くなられ、その告別式は自宅で、各界の名士が多数参列し、盛大に行われました。

若かりし日を追憶すること、小田先生を懐しく偲ばれます。（薬劑師）

戦争の記憶が遠ざかるとき  
戦争の足音が近づく  
軍備増強 防衛強化の幕うらで  
多数派を利用し  
民主主義を憲法をふみにじる  
暴圧と毒牙の跳梁

すべての婦人は今立ちあがる  
平和に武器はいらないと  
母なれば命もて  
いくさ阻まん  
かきたててくれ  
戦争反対の爆火  
ともしてくれ

民主主義と自由の火を  
火を。火を。

くらしと平和を守る火を。  
（新日本婦人の会京都府本部）

## 婦人の声をお願い

婦人のページを設けました。  
各方面のご婦人がたのご寄書、御投稿、御通信を送って下さい。  
編集室から――

1981年  
元旦

明けましておめでとう!

|                                                                                |                                                              |                                                                       |                                                                               |                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| <p>立命館大学教授</p> <p>塩田 庄兵衛</p> <p>左京区田中関田町二一七<br/>電話 七五一〇二四三番</p>                | <p>京大名譽教授</p> <p>重沢 俊郎</p> <p>左京区高野沢淵町一一<br/>電話 七八一六九一四番</p> | <p>医療法人 岡谷会常務理事</p> <p>岡谷 元治</p> <p>左京区田中下柳町一一<br/>電話 七七一一〇二九</p>     | <p>竜谷大学教授</p> <p>浅井 清信</p> <p>左京区下鴨岸本町五<br/>電話 七八一〇〇一九番</p>                   | <p>立命館総長</p> <p>天野 和夫</p> <p>右京区宇多野御屋敷町一一<br/>電話 四六三一九五九番</p>       |
| <p>立本寺住職</p> <p>細井 友晋</p> <p>上京区北野一番地一〇七<br/>電話 四六一一六五九番</p>                   | <p>組合役員</p> <p>糸井 一</p> <p>北区上賀茂本山三八九<br/>電話 七一一二七四九番</p>    | <p>医師</p> <p>中野 信夫</p> <p>北区ケシ山一一五八八三番<br/>電話 七〇一一一五八三番</p>           | <p>立命館大学教授</p> <p>細迫 朝夫</p> <p>北区衣笠高橋町四〇<br/>衣笠グリーンハイッ五二〇<br/>電話 四六三三四二三番</p> | <p>立命館大学教授</p> <p>飯田 助左衛門</p> <p>北区新町鞍馬口上る一六九<br/>電話 四四三一一八六七六番</p> |
| <p>軽印刷</p> <p>児玉 誠</p> <p>中京区西ノ京南円町七一<br/>電話 八一一一七六四六番</p>                     | <p>電気工事店</p> <p>矢野 恒範</p> <p>右京区西京極東側町二五<br/>電話 三一三〇四七番</p>  | <p>秋田 清二郎</p> <p>上京区東三本木丸太町上る<br/>電話 二三一五九六二六番</p>                    | <p>出版社役員</p> <p>飯田 助左衛門</p> <p>北区新町鞍馬口上る一六九<br/>電話 四四三一一八六七六番</p>             | <p>やまもと内科</p> <p>山本 浩治</p> <p>北区小山西上総町七一<br/>電話 四四一八七一三番</p>        |
| <p>ミナイ薬局 薬剤師</p> <p>南井 吉五郎</p> <p>中京区聚楽廻南町四一<br/>千本通出世稲荷下る<br/>電話 八一一一八八八番</p> | <p>東山企業組合</p> <p>小林 義治</p> <p>北区小山西上総町八二<br/>電話 四三一〇七三五番</p> | <p>団体役員</p> <p>井上 喜代松</p> <p>西宮市上ヶ原八番地<br/>電話 〇七九八(五二)四<br/>三一三〇番</p> | <p>医師</p> <p>横村 庄一郎</p> <p>下京区大宮通松原下る<br/>電話 八四一一二三八〇番</p>                    |                                                                     |

1981年  
元旦

明けましておめでとう!

|                                                                      |                                                                                              |                                                                                                                                     |                                                                     |                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| <p>経 理</p> <p>西 村 清 三</p> <p>伏見区桃山本多上野一六ノ二<br/>電話 六一二一一三三五番</p>      | <p>理客室</p> <p>田 中 豊 一</p> <p>南区東九条下殿田町二三<br/>電話 六九一〇五二番</p>                                  | <p>斎 藤 英 三</p> <p>中京区河原町御池下る東入る<br/>電話 二三一一四四一六番</p>                                                                                | <p>斎 藤 雷 太 郎</p> <p>上京区今出川通千本西入る<br/>電話 四六一三八七五番</p>                | <p>松山事件 京都守る会</p> <p>大 原 健 次</p> <p>左京区高野玉岡町一<br/>電話 七一一一三〇六六番</p>   |
| <p>渡 辺 美 登</p> <p>伏見区淀大下津町一一七番<br/>電話 三六一二〇七五番</p>                   | <p>中 村 富 三 郎</p> <p>伏見区納所三三<br/>電話 六三一二九〇一番</p>                                              | <p>細 見 幸 基</p> <p>福知山市字西中ノ町二四七<br/>電話 〇七七三(二二)五五〇六番</p>                                                                             | <p>会 社 員</p> <p>清 水 定 平</p> <p>向日市森本佃二〇一<br/>電話 〇七五一九三三(一)七二六七番</p> | <p>槇 正 博</p> <p>宇治市広野町尖山二の九六<br/>電話 〇七七四一四三(一)八六四八番</p>              |
| <p>吉 田 泰 三</p> <p>東大阪市足代三一二三<br/>電話 〇六(七二一)七六五二番</p>                 | <p>大阪労働運動史研究会</p> <p>高 田 鉦 造</p> <p>大阪市北区西天満三丁目六ノ二七<br/>シャットー南森町四〇五号<br/>電話 〇六(三六四)四一〇七番</p> | <p>伊 東 剣 之 丞</p> <p>吹田市内本町一丁目八一五<br/>電話 〇六一三(一八)九四三番</p>                                                                            | <p>小 島 克 己</p> <p>尼崎市武庫之荘一〇一<br/>電話 〇六一四三八(一〇)二四九八番</p>             | <p>擦糸機組立工</p> <p>村 中 嘉 明</p> <p>石川県小松市古城町八五<br/>電話 〇七六一(二二)三二二三番</p> |
| <p>医療法人 岡谷会<br/>理事長 岡 谷 実</p> <p>奈良市西木辻町二〇〇<br/>電話 〇七四二(二三)二五〇一番</p> | <p>建築・設計</p> <p>蓮 仏 享</p> <p>宇治市南陵町二丁目一一四<br/>電話 〇七七四(二三)二七二番</p>                            | <p>葵タクシー株式会社</p> <p>代表取締役 蟹 江 邦 彦</p> <p>本 社 伏見区竹田久保町 63 の 5<br/>電話 641 - 7124 番</p> <p>自 宅 東山区宮川筋 5 丁目 325<br/>電話 531 - 5657 番</p> |                                                                     | <p>平 井 重 太 郎</p> <p>旧名 斎藤氏之助<br/>福岡市西区荒江三丁目<br/>一三一三の九</p>           |

1981年  
元旦

明けましておめでとう!

|                                                |                                             |                                        |                                         |                                          |                                                 |                                         |                                         |                                                |                                                           |                                                          |                                                            |                                        |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| <b>安井病院</b> 左京区田中飛鳥井町八九<br>電話 七〇一六一一五          | <b>川端診療所</b> 左京区川端通り夷川上る<br>電話 七七一六二九八番     | <b>田中診療所</b> 左京区田中玄京町二五<br>電話 七八一四九五九番 | <b>東山診療所</b> 東山区今熊野宝蔵町四三<br>電話 五六一一五五〇番 | <b>右京病院</b> 中京区西ノ京小堀池田五<br>電話 八一一一五一六六番  | <b>盛林診療所</b> 上京区黒門通下立売下る森仲町<br>六〇〇 電話 八四一一五九三六番 | <b>春日診療所</b> 右京区西院下花田町二一<br>電話 三一一一三七六番 | <b>朱雀診療所</b> 中京区京永本町一九<br>電話 八二一一三二八二番  | <b>上京病院</b> 上京区千本通上立売上る作庵町<br>五〇四 電話 四三二一一二六一番 | <b>仁和診療所</b> 上京区仁和寺街道御前西入る下<br>横町二三〇 電話 四六二一一五一〇番         | <b>吉祥院病院</b> 南区吉祥院井ノ口町四三<br>電話 六七二一一三三一番                 | <b>久条診療所</b> 南区東久条御霊町二<br>電話 六九一一七五八八番                     | <b>久世診療所</b> 南区久世殿城町三三<br>電話 九二一一三五三五番 |
| <b>猪熊診療所</b> 南区西九条猪熊通り東寺道上ル<br>東側 電話 六九一一一一一三番 | <b>西七条診療所</b> 下京区西七条西久保町一四ノ八<br>電話 三一三一〇四〇一 | <b>北病 院</b> 北区紫野上築山町三二<br>電話 四三一一六一七一三 | <b>待鳳診療所</b> 北区紫竹西南町六五<br>電話 四九一一〇二七九番  | <b>上賀茂診療所</b> 北区上賀茂山本町五〇<br>電話 七八一一一四〇九番 | <b>柏野診療所</b> 北区紫野中柏野町六二<br>電話 四六一一八八一番          | <b>かも川診療所</b> 北区出雲路俵町一五<br>電話 二二一一三八〇三番 | <b>あやべ診療所</b> 綾部市本町四一六<br>電話 綾部四二一〇四四〇番 | <b>膳所診療所</b> 大津市昭和町七一六<br>電話 大津二四一八一四番         | <b>近畿高等看護専門学校</b> 上京区智恵光院竹屋<br>町東入主税町一二五四<br>電話 八四一一七四三〇番 | <b>京都医療事業協同組合</b> 右京区西院久田町九<br>全京都建設会館五階<br>電話 三一二一八五七三番 | <b>京都民主医療機関連合会</b> 右京区西院久田町<br>九 全京都建設会館五階<br>電話 三一四一五〇一一番 |                                        |

## 京都第一法律事務所

中京区衣棚夷川上る吉田ビル3階 電話 211-4411 (代)

## 弁 護 士

|    |    |    |   |     |   |
|----|----|----|---|-----|---|
| 稲村 | 五男 | 村山 | 晃 | 井   | 豊 |
| 川中 | 宏  | 森川 | 明 | 近藤  | 忠 |
| 渡辺 | 哲  | 田崎 | 信 | 渡辺  | 孝 |
| 加藤 | 英  | 谷  | 幸 | 事務局 | 同 |

## 柴田茲行法律事務所

中京区丸太町通高倉東入る タカハシビル3階  
電話 256-3971 (代)

## 弁 護 士

柴 田 茲 行

1981年  
元旦

明けましておめでとう!

|                                                     |                                                  |                                           |                                         |                                          |                                           |                                                |                                         |                                              |                                             |                                            |                                               |                                                  |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 京都府商工団体連合会<br>府中小企業会館 電話 三一七七一〇一(代)                 | 北民主商工会<br>北区西賀茂南川上町二五<br>電話 四九二一〇六三番             | 上京民主商工会<br>上京区仁和寺街道千本東入<br>電話 四三二一二六一番(代) | 中京民主商工会<br>中京区両替町丸太町下る<br>電話 二三二一〇一〇一番  | 下京民主商工会<br>下京区七条新町東入る<br>電話 三六一一七三八一番(代) | 南民主商工会<br>南区東九条河辺町二九<br>電話 六六一〇九〇一番(代)    | 左京民主商工会<br>左京区田中西大久保町一一<br>電話 七二二一三三三〇番        | 東山民主商工会<br>東山区東大路松原上る東入<br>電話 五四一一五一六一七 | 山科民主商工会<br>山科区柳辻中在家町二八<br>電話 五二九一五八八番        | 右京民主商工会<br>右京区西院上花田町三六の三<br>電話 三二二一二二五七番(代) | 伏見民主商工会<br>伏見区桃山毛利長門西町一<br>電話 六二二一二三三三番(代) | 宇治民主商工会<br>宇治市槇島石橋三三 文本ビル<br>電話 〇七七四(二三)八〇一一番 | 城陽・久美山民主商工会<br>城陽市平川中道表<br>一の二二 電話 〇七七四五(二)七八一三番 |
| 八幡民主商工会<br>八幡市八幡三本橋六〇の五<br>山本ビル2F(九八二) 電話 〇七五一六〇九三番 | 相楽民主商工会<br>相楽郡山城町上狛小字東作道<br>四四の二 電話 〇七七四八六一四三三二番 | 西京民主商工会<br>西京区松尾鈴川町八三の二<br>電話 三九一一二六七一番   | 向日民主商工会<br>向日市寺戸町飛竜七の七<br>電話 九三三二七〇四一五番 | 乙訓民主商工会<br>長岡京市阪急長岡天神駅前<br>電話 九三二一五八四八番  | 亀岡民主商工会<br>亀岡市追分町大堀一七の一<br>電話 〇七七二一三一五七七番 | 船井・北桑田民主商工会<br>園部町河原町五一<br>二三 電話 〇七七一六(二)三五五〇番 | 綾部民主商工会<br>綾部市本町<br>電話 〇七七三四(二)五三三八番    | 福知山民主商工会<br>福知山市堀下高田二三九三<br>電話 〇七七三(二二)五一九七番 | 舞鶴民主商工会<br>舞鶴市北吸 市役所前<br>電話 〇七七三(六二)一八六〇番   | 与謝民主商工会<br>宮津市亀ヶ丘 宮津劇場前<br>電話 〇七七二(二)五〇二〇番 | 丹後民主商工会<br>中郡峰山町荒山大坪四二五<br>電話 〇七七二六(二)四三九番(代) | 個人タクシー相互協同組合<br>左京区田中西高原<br>町二七 電話 七二二一二三四〇番     |

## 京都中央法律事務所

中京区駄屋町通二条下る 第ふや町ビル5階  
電話 222-0461 (代)

弁護士

蒔 弘子  
中島 晃 久米 福二  
立明 中山

## 京都南法律事務所

伏見区深草西浦町7丁目67 ダイケン・ジョアビル3階  
電話 643-3373 (代)

弁護士

所長 平田 武義 岩佐 英夫  
中尾 誠 田中 伸

1981年  
元旦

明けましておめでとう！

中京区壬生仙念町（労働者総合会館内）  
電話 八〇一八六一九番

自治労京都府本部

委員長 吉田 平

中京区河原町御池（京都市役所内）  
電話 二四一一八二二番

京都市職員労働組合連合会

委員長 大島 久次

左京区九太町通新道上る（京都市教育会館内）

京都市教職員組合協議会

京都市立高校教職員組合（電話七七一―九七一―番）  
京都市立高校教職員組合（電話七七一―三二八番）  
京都市立高校教職員組合（電話七五一―六四五番）上京区下立売釜座（京都市庁内）  
電話 四三二―二〇〇六番

京都府職員労働組合

委員長 大江 洸

中京区河原町御池（京都市役所内）  
電話 二二二―三八八三番

京都市職員労働組合

委員長 三村 義夫

中京区九太町新町角  
電話 二一―五三七二番（代）

日本共産党京都府委員会

委員長 安井 真造  
副委員長 梅田 勝弘" 田中 善男  
" 広田 善男上京区下立売釜座（京都市庁内）  
電話 四五―一八六二番

日本共産党京都府会議員団

団長 西山 秀尚

中京区河原町御池（京都市役所内）  
電話 二二二―三七二八番

日本共産党京都市会議員団

団長 三宅 勝